

平成16年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特18	学校名	茨城県立結城養護学校						課程	全日制				学校長名	平井 一郎					
教頭名	宮田 孝夫			小田倉 勝雄										事務(室)長名	小倉 正郎					
教職員数	教諭	8	1	養護教諭	2	常勤講師	3	6	非常勤講師	5	実習教諭, 実習講師, 実習助手	2	事務職員	4	技術職員等	8	計	138		
児童生徒数			1年		2年		3年		4年		5年		6年		小計		合計	クラス数		
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		合計	一般	重複
	小学部		7	2	8	5	12	3	8	3	10	7	11	2	56	22	78	13	7	20
	中学部		21	9	21	4	17	2							59	15	74	11	6	17
	高等部		18	15	26	11	23	15							67	41	108	14	2	16
	訪問教育		0	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3	4		2	2
小中		0	1	0	0	0	0							0	1	1		1	1	
中高		0	1	1	0	0	0							1	1	2		1	1	

2 目指す学校像

<p>地域とともに学び，地域を支援する信頼と活力ある学校 自立や社会参加する力（生きる力）を育む教育を提供する学校</p>
<p>児童生徒一人一人に応じた適切な教育により，一人一人の主體的な活動に必要な支援を行う。 保護者や地域とともに連携・協働し，信頼と活力のある地域に開かれた学校づくりを目指す。 地域の特別支援学校としてのセンター的機能と役割を發揮する。</p>
<p>校訓 ・あかるく ・ねばりよく ・じぶんで</p>

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
一人一人のニーズに応じた教育	・児童生徒一人一人のニーズに応じた教育活動を推進するため「個別の教育支援計画」の策定に着手するとともに引き続き「個別の指導計画」を作成し，指導にあたっている。	・保護者や関係機関との信頼関係をより深めながら，継続的な面談，情報交換，観察記録等により課題の設定，指導内容の方法の改善に努める必要がある。

<p>進路指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の多様化等に対応するために、一人一人が障害を主体的に改善・克服する上で必要な適応機能（日常生活や意思伝達、対人的機能等）の向上を目指した指導の改善充実や保護者への学習結果の伝達を個別面談等を通して行えるよう計画を進めている。（個別の指導計画と通知票との一体化） ・小学部から保護者の意識の高揚を図る観点から、労働・福祉関係の各種情報を提供するとともに研修機会（PTA全体、地区P単位）の充実を図っている。（進路だより4回発行、PTA進路生活委員会4回、福祉相談12市町村） ・高等部生徒（110（1年34、2年38、3年38）名）の増加（前年比12増）及び障害の重度重複・多様化により、現場実習先63カ所（10増）、進路相談327件（86増）、職場・進路先開拓158件（48増）など増加傾向は続いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導技術・専門性を高めるため、各種研修会への参加を推進するとともに教師個々がもつ能力を有効に機能させる（役割分担）必要がある。
<p>指導力向上と専門性の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の重度重複・多様化に伴い、それぞれのニーズに対応するために、教員のより高度な指導技術と専門性が要求されている現状から、研修会への計画的・積極的参加と校内における伝達研修、初任者研修（6名）、5年次研修（6名）10年経験者研修（5名）など、計画的な研修を通じた校内全体の底上げが必要。 ・養護学校教諭免許状の早期取得の奨励（47 / 81：教諭）所持率58% 	<ul style="list-style-type: none"> ・中高等部の生徒の増加傾向に対応するため、卒後を見通した具体的な進路指導及び職業教育の改善・充実を図る必要がある。 ・高等部の現場実習は、現状の体制及び形態では無理が生じる恐れが多分にあり、実施形態や職員の配置体制の工夫改善が必要である。 ・児童生徒の実態を多面的に捉え、それぞれのニーズに対応した、授業の展開及び評価・検証を継続的に行う必要がある。
<p>センター的機能と役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のニーズに応じた支援を推進するため、関係機関との連携を図りながら、域内2市町の支援会議等に参加。6市町の就学指導委員会に委員派遣。上記支援会議等への（教育）支援計画の提示により、具体的な協議が進められている。（15年度学校見学 - 25件、教育相談 - 49人、体験入学5回 - 24人、域内小・中学校との情報交換会 - 3回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・広域合併との関係もあるが、現在、本校が参加して進めている地域支援会議等を活用し、（教育）支援計画づくりを隣接自治体に広げていくとともに、支援のためのネットワークづくりが急務である。 ・多様な相談内容に対応すべく、校内のコーディネーターの養成とともに、地域の関係コーディネーター間の連携が必要である。（連絡調整会議等）
<p>医療的ケア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒のケアの状況を、医療機関との連携により的確に把握するとともに職員研修を実施し、学校と保護者、教師相互の連携と共通理解を図っている。対象児童生徒16人（現在申請中の者を含む） 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は、てんかん発作のみの対応であるが、今後、障害の多様化にむけた、迅速な対応策を図り、ニーズに対応する必要がある。
<p>部活動の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な社会参加と生涯にわたってスポーツに親しむ態度を育成するため、中高等部の生徒を対象に、運動・スポーツ活動の充実と体力向上及び生涯スポーツの重要性を認識し、参加を奨励している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的障害の軽い生徒のニーズに対応すべく、余暇活動の充実を図るには、運動面だけでなく、文化系部活動等の推進も必要である。

4 中期的目標

<p>個別の教育支援計画（個別の就学支援計画、在学中の教育支援計画、移行支援計画）の策定と個別の指導計画の作成及びその運用が円滑に図れるように努める。</p> <p>保護者や福祉、労働、医療・保健との連絡調整を効果的機能的に行うため、計画的なコーディネーターの養成を目指す。</p> <p>地域の特別支援学校としてのセンター的機能と役割を発揮するため、地教委及び域内各小中学校等・高校、保護者や労働、医療・保健、福祉等によるネットワークの構築を目指す。</p>
--

5 年次ごとの重点目標

年次	重点目標	具体的目標	達成状況
	<p>連携</p> <p>学校内及び学校、家庭、地域等との連携</p>	<p>学部、校務部間の協力体制を築き、保護者や地域の関係諸機関</p>	

1 年次	・協働	・協働による教育活動の推進	との連携を図りながら、適切な教育活動及び相談等の地域支援活動を推進する（在校生全員の個別の教育支援計画の策定にむけた取り組み）。 保護者及び児童生徒の居住する地域（小学校等を含む）との連携・交流を深めながら、「地域で生きる」ことを目指した教育活動及び就労・生活支援（施設等への福祉就労を含む）を推進する。（地域療育等支援事業との連携）
	生きる力の育成	個に応じた教育活動を推進し、日常生活及び家庭生活・職業生活等社会生活をする力など、生きる力の育成（一人一人のニーズに応じた教育の実践）	個に応じた教育活動を推進するため、保護者（施設職員）や関係機関との連携を深め、個別の教育支援計画の円滑な運用を図る（個別の教育支援計画（移行支援計画を含む）の検討・作成及び実施マニュアル等の作成（16年度実施予定））。 担任間の引継ぎを確実にし、保護者との継続的な面談を通して、一人一人の課題や三者の願いを共有し、相互の信頼関係に基づく効果的指導に努める。 障害を主体的に改善・克服するために必要な適応機能の向上を目指した生きる力をつけるための指導計画の工夫：改善を図る。... 児童生徒の実態に応じた教育課程の編成と教育実践並びに適正評価を行う。（児童生徒数の増加に伴うニーズの多様化に対応した教育課程の編成、高等部現場実習実施形態の見直し、学年等のケース会の充実化） 教育活動その他の学校運営の状況に応じた学校評価システムの構築を図る。 教師個々による経営目的達成のための行動計画策定：検討 教員の専門性等資質能力の向上を目指し、一人一人のニーズに対応した教育活動の改善充実を図る。喫緊の課題に対応した研修の充実化を図る（校内全体研修～伝達研修含む、学部研修、人権教育研修の充実）。
	適正評価・検証、公表	一人一人の実態を的確に把握し、応える教育実践 P - D - S (C - A) の推進（学校評価システムの構築と教育活動等の改善・充実）	児童生徒の実態に応じた教育課程の編成と教育実践並びに適正評価を行う。（児童生徒数の増加に伴うニーズの多様化に対応した教育課程の編成、高等部現場実習実施形態の見直し、学年等のケース会の充実化） 教育活動その他の学校運営の状況に応じた学校評価システムの構築を図る。
	指導の改善・充実	専門性の向上を目指した研究等研修の実践	教師個々による経営目的達成のための行動計画策定：検討 教員の専門性等資質能力の向上を目指し、一人一人のニーズに対応した教育活動の改善充実を図る。喫緊の課題に対応した研修の充実化を図る（校内全体研修～伝達研修含む、学部研修、人権教育研修の充実）。
	豊かな人間性の育成 安全と安心の確保	情操の陶冶と望ましい社会性の育成を図り、豊かな心と夢を育む心の教育の推進（校内外の児童生徒や地域の人々との交流の推進、体験を通じた教育活動の推進） 健康安全教育の推進と健康で快適な教育環境の整備	校訓の「あかるく、ねばりづよく、じぶんで」の具現化に対応した豊かな心と夢を育む心の教育を推進する。 学校教育活動全般を通じた情操教育の推進と社会性の育成を図る。（居住地域交流、部活動、作品展等芸術文化活動の推進） 健康安全教育の推進を図るとともに、医療的ケアを要する児童生徒に対応するため、医療機関との連携を深める。 施設設備の保安全管理に努めるとともに、緊急時対応マニュアル（防犯・不審者対応・防災・保健医療等）の再点検とその運用上における確認等の徹底を図る。
2 年次	連携・協働	学校内及び学校、家庭、地域等との連携・協働による教育活動の推進	学部、校務部間の協力体制を築き、保護者や地域の関係諸機関との連携を保ちながら、適切な教育活動及び相談等の地域支援活動を推進する。（在校生全員の個別の教育支援計画の策定） 保護者及び児童生徒の居住する地域（小学校等を含む）との連携・交流を深めながら、「地域で生きる」ことを目指した教育活動及び就労・生活支援（施設等への福祉就労を含む）を推進する。（地域療育等支援事業との連携）

	<p>生きる力の育成</p> <p>-----</p> <p>適正評価・検証，公表</p> <p>-----</p> <p>指導の改善・充実</p> <p>-----</p> <p>豊かな人間性の育成</p> <p>-----</p> <p>安全と安心の確保</p>	<p>個に応じた教育活動を推進し，日常生活及び家庭生活・職業生活等社会生活をする力など，生きる力の育成（一人一人のニーズに応じた教育の実践）</p> <p>一人一人の実態を的確に把握し，応える教育実践</p> <p>P - D - S (C - A) の推進（学校評価システムの確立と教育活動等の改善・充実）</p> <p>-----</p> <p>専門性の向上を目指した研究等研修の実践</p> <p>-----</p> <p>情操の陶冶と望ましい社会性の育成を図り，豊かな心と夢を育む心の教育の推進（校内外の児童生徒や地域の人々との交流の推進，体験を通じた教育活動の推進）</p> <p>健康安全教育の推進と健康で快適な教育環境の整備</p>	<p>個に応じた教育活動を推進するため，保護者（施設職員）や関係機関との連携を深め，個別の教育支援計画の円滑な運用を図る（域内自治体ケース会議等への参加と域内小中学校・教委との連携を深め，個別の教育支援計画及び移行支援計画の試行実践）</p> <p>児童生徒の実態に応じた教育課程の編成と教育実践並びに適正評価を行う。（児童生徒数の増加に伴うニーズの多様化に対応した教育課程の編成・高等部現場実習の新しい実施形態の試行，職業教育の改善）</p> <p>教育活動その他の学校運営の状況に応じた学校評価システムの再点検</p> <p>教師個々の経営計画試行</p> <p>教員の専門性等資質能力の向上を目指し，一人一人のニーズに対応した教育活動の改善充実を図る。（校内課題研修の充実，人権教育研修の充実）</p> <p>保護者や地域との連携に基づく情操教育の推進と社会性の育成を図る。</p> <p>（居住地校交流・居住地域交流・部活動等のさらなる推進）</p> <p>-----</p> <p>健康安全教育の推進を図るとともに，医療的ケアを要する児童生徒に対応するため，校内研修の確保と医療機関との連携を深める。</p> <p>学校栄養職員等との連携による給食指導の充実</p> <p>施設設備の保安全管理に努めるとともに，緊急時対応マニュアルの再点検とその運用上における確認等の徹底及び訓練の充実を図る。</p>	
3年次	<p>-----</p> <p>連携・協働</p> <p>-----</p> <p>生きる力の育成</p> <p>-----</p> <p>適正評価・検証，公表</p>	<p>学校内及び学校，家庭，地域等との連携・協働による教育活動の推進</p> <p>-----</p> <p>個に応じた教育活動を推進し，日常生活及び家庭生活・職業生活等社会生活をする力など，生きる力の育成（一人一人のニーズに応じた教育の実践）</p> <p>一人一人の実態を的確に把握し，応える教育実践</p> <p>P - D - S (C - A) の推進（学校評価システムに基づく教育活動等の推進と改善・充実）</p>	<p>保護者や地域の関係諸機関との連携を深めながら，適切な教育活動及び相談等の地域支援活動を推進する。（在校生全員の個別の教育支援計画の改善充実）</p> <p>学校のセンター的役割を果たす取り組みをとおして，「地域で生きる」ことを目指した教育活動及び就労・生活支援（施設等への福祉就労を含む）を推進する。（地域療育等支援事業との連携）</p> <p>地域の人材・小中学校コーディネーターを交えた地域における連携協力の推進</p> <p>-----</p> <p>個に応じた教育活動を推進するため，保護者（施設職員）や関係機関との連携を深め，個別の教育支援計画の円滑な運用を図る（個別の教育支援計画及び移行支援計画の実践）</p> <p>-----</p> <p>児童生徒の実態に応じた教育課程の編成と教育実践並びに適正評価を行う。（ニーズの多様化に対応した教育課程の改善充実・高等部職業教育の充実）</p> <p>教育活動その他の学校運営の状況に応じた学校評価システムの再点検と改善充実</p>	

指導 の改善 ・充実	専門性の向上を目指した研究等研修の実 践	教師個々の経営計画作成 教員の専門性等資質能力の向上を目指し、一人一人のニーズに 対応した教育活動の改善充実を図る（校内課題研修の再点検，人 権教育研修の充実）。	
豊かな人間 性の育成	情操の陶冶と望ましい社会性の育成を図 り，豊かな心と夢を育む心の教育の推進 （校内外の児童生徒や地域の人々との交流 の推進，体験を通じた教育活動の推進）。	小中学校担当者との教育情報交換会の充実 保護者や地域との連携に基づく情操教育の推進と社会性の育成 を図る。 （居住地校交流・居住地域交流・部活動のさらなる推進） 趣味や余暇活動の推進（運動・スポーツ，文化活動）。	
安全 と安心 の確保	健康安全教育の推進と健康で快適な教育 環境の整備	健康安全教育の推進を図るとともに，医療的ケアを要する児童 生徒に対応するため，研修体制の充実，医療機関との連携を深め る。 学校栄養職員等との連携による給食指導の充実 施設設備の保安全管理及び意識の確立に努めるとともに，緊急時 対応マニュアルの常時再点検の徹底を図る。	